

2013年度 事業評価結果一覧

(1) 外部評価(専門の民間機関による評価)

	団体名	事業概要	レベル	評価ポイント	上段: 優れている点
	事業名		1000点満点		下段: 改善に向けた課題
1	(公財) ブルーシー・アンド・グリーンランド財団	「水の事故ゼロ」を目指し、教育・体験・啓発普及活動を推進する。 1.水辺の安全講習会、教材配布・貸出、講師派遣・幹旋 2.海外先進事例の調査 3.パートナー・サポーターの募集 4.水の安全標語の募集 他	V	405	国内の水難事故に対して問題意識を持ち、防止活動のリーダーシップを取り、縦割行政を橋渡ししようとする姿勢は良い。
	水の事故をゼロにするための周知活動の実施		「水の事故ゼロ運動」を国民運動にすることを目標に掲げているが、柱となる事業が無く、事業の企画・立案・組織体制に問題を抱え、成果が上がっていない。		
2	日本財団	当財団では、障害者の自立支援と生きがいづくりのため、2006年度から福祉施設等で業務に使用する「働く車」の配備に助成している。 ※2006～2012年度 (福)富岳会 他257団体・270台	III	735	これまでの実績と経験を基に独自性の高い事業を大規模に展開することにより、支援先において利用者の成長・施設経営に高い成果を上げている。また、カスタマイズ車をラインナップ化し、車両助成全体の向上に寄与している。
	障害者の就労支援車両の配備		大きな方向が打ち出されている一方、車種毎の目的の違いが不明瞭。また、車両を用いた障害者就労のビジネスモデルについて追跡調査が不足であると共に、車両を用いた業務に対するソフト面の支援が不足している。		
3	(一社) 日本船舶品質管理協会	船舶の安全性を確保するため、認定事業場制度を維持している。認定事業場の要件を満たす人材を養成するため、資格取得講習会及び資格更新研修会を開催する。	II	755	最新動向や現場の声を反映して継続的に改善している。実務で役立つ内容の習得、最新情報の収集と技術者の交流の場として受講者の満足度が高い。
	認定事業場の品質管理向上のための人材養成		不具合の事例や情報を取り上げるというニーズに対応できていない。また、本事業の成果を測定する指標の設定が必要である。ここ10年間で一事業場の技術者保有者数が減少しており、資格の魅力度が低下している。		
4	(学) 自治医科大学	地域医療連携を重視した緩和ケアを追求するため、本大学に寄附講座を開講し、医大生を対象とする緩和医療・緩和ケア教育プログラムの開発と実践、普及のための発信を行う。	II	760	日本で唯一の標準的・体系的な教育カリキュラムが開発され、医大において教育が実践された社会的意義は大きい。また、カリキュラムや教材は、他大学の指導者から高く評価されていると共に、受講生の関心を高めている。
	寄附講座「緩和医療講座」の実施		初期の目標はほぼ達成された。今後は、普及の促進を図るための取り組みに注力していくことが望まれる。		
5	(特非) フィリピン日系人リーガルサポートセンター	フィリピン残留日本人2世の戸籍および日本人としてのアイデンティティを回復するため、就籍申立及び孤児名簿の作成を行う。 1.孤児名簿の作成(身元調査、証拠書類収集) 2.残留日本人2世集団一時帰国 3.就籍申立	III	710	これまでに208人の戸籍回復を果たし、アイデンティティの回復や経済的恩恵など、精神的・経済的な成果を上げている。更に、次世代の残留3・4世の就労・教育環境の向上にも寄与している。
	フィリピン残留日本人2世の戸籍回復支援		高齢化した残留2世の余命を見据えて時間軸を意識した目標・計画を策定する必要がある。同時に世論を喚起する広報戦略の見直しが必要である。		
6	(一財) 全日本ろうあ連盟	手話によって豊かな文化を享受できる社会の実現に向けた調査及びフォーラムの開催。 1.国内調査 2.海外調査 3.手話言語法(仮称)フォーラムの開催 4.パンフレットの作成・配布	大変優れている	-	石川県の意見書採択運動や北海道石狩市の条例作りのきっかけを作ることに貢献し、非常に大きな成果を挙げている。また、同種の社会運動や諸外国の成功モデルの導入という観点から、妥当性、持続性・自立発展性も十分である。
	手話言語法(仮称)制定推進事業		他の障害者団体との連携を工夫すれば、本事業を効果的に推進できるのみならず、他障害の領域への普及が図られ、広く社会的な貢献にもなると考えられる。		
7	(公財) 笹川スポーツ財団	2011年にスポーツ助成事業やイベント実施事業を中心とした活動から、「生涯スポーツに関する研究・調査活動を中心としたシンクタンク事業」に舵を切った。 1.スポーツ振興のための調査研究 2.スポーツ振興機関との連携 3.スポーツ振興のための支援	-	-	「スポーツ好き」という純粋な思いと高い能力を持つ人材が集まり、組織内外でミッションを共有化し、現場の意図を反映した事業計画・予算を以て、少人数で多くの事業を手掛けている。
	基盤整備(団体評価)		ミッションの実現に向けた人材採用・配置・育成、及び業務ノウハウや知識を共有する仕組みが必要。また、優先的に巻き込むべき団体や提供価値の伝播方法の明確化、並びに広報面においては機能の強化、ターゲットの絞り込みと優先順位付けが必要である。		
8	女川魚市場買受人協同組合	東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県女川町に、地域水産業サプライチェーンの再生に向けた「多機能水産加工施設」を建設した。 1.名称: MASKAR(女川魚市場買受人共同組合冷凍冷蔵庫) 2.概要: 敷地面積7760.75㎡、建設3357.41㎡、延床面積6932.49㎡、S造・SRC造 地上3階建て	卓越した水準	-	加工業者の事業再開が促進されたことにより、水産業の流通拠点施設として、地域経済や地域産業の復興に貢献している。更に、女川の町づくり、産業の育成、人づくりなど多方面で効果を発揮している。
	カタールフレンド基金 女川町水産加工施設の建築		女川町の産業復興には少なくとも2～3年はかかる見込みである。将来に向けて、地域ブランド戦略に合わせた付加価値の検討、周辺事情を視野に入れた作業効率・コストの対策、防災拠点としての充実に取り組むことが望まれる。		

2013年度 事業評価結果一覧

9	(福) はる	障害者の自立支援と生きがいづくり、利用者の作業工賃向上のため、障害者支援施設(A型)に機器を整備。	—	SROI(社会的投資収益率)による算出では、1万円の投資(助成)あたり2.61万円の社会投資収益があり、約3.1年で投資が回収できることが確認できた。製菓事業は年間2,000万円を売り上げる事業として成長しており、障害者の就業支援と事業性が実現している。
	障害者支援施設の機器整備	1.2007年度:製菓用プレハブ冷凍庫 2.2009年度:製菓用スチームオーブン、カットマシン他	—	印刷機材の活用による企業クライアントの開拓、並びにノウハウの他施設への移転、定員拡大、複数拠点展開により、就労支援と障害者雇用拡大の可能性がある。
	(福) オリーブの樹	障害者の自立支援と生きがいづくり、利用者の作業工賃向上のため、障害者支援施設(B型)を改修。	—	SROI(社会的投資収益率)による算出では、1万円の投資(助成)あたり1.11万円の社会投資収益があり、約9年で投資が回収できることが確認できた。本人に対するインパクトは相対的に小さいが、障害者の社会参加や自己実現を達成する機会として機能している。
	障害者支援施設の整備	2008年度:1階厨房とレストラン、2階洋室・和室、電動昇降機	—	専門性を持った職員が配置されておらず経営(採用)課題が大きい。利用者の特性に合致し、より良い生産性をあげられる職種に集中した事業展開が求められる。

<評価レベルの基準について>

評価者が異なるため、評価スケールが異なる。

※1~5(株)リサーチ・アンド・デベロップメント

I(850~1000)卓越した水準にある

II(750~849)優秀な水準にある

III(650~749)良好な水準だが、一部問題がある

IV(550~649)一応の水準にあるが、かなりの問題がある

V(0~549)多くの問題がある

※6学校法人 日本社会事業大学

※7グロービス経営大学院

※8公共価値創造研究所

※9(株)国際開発センター、(特)SROIネットワークジャパン

2013年度 事業評価結果一覧

(2) 内部評価(監査グループによる評価)

	団体名	事業概要	レベル	評価ポイント	上段:優れている点
	事業名		1000点満点		下段:改善に向けた課題
10	(公財)日本科学技術振興財団	来館者に科学に対する関心や知識を醸成するため、体験型展示物を制作し、展示を行う。また、独自に展示物の制作が困難な科学館に貸出し、他の科学館を支援する。 2001年度～2011年度に5種類の展示物を制作	B	765	過去に制作された5つの展示物は、全国延36ヶ所で71回展示され100万人超の来館者に高い満足感を与えている。また、展示物を借用した各地の科学館にとっても、集客契機になっているほか、子どもの科学的関心を喚起する手法を学ぶ機会になっている。
	「犯罪捜査で活用される科学技術」に関する巡回展示の実施		展示物制作の評価改善(PDCA)サイクルが不十分である。また、展示物の貸出先が固定化しており、貸出先の掘り起こしが求められる。		
11	(特非)21世紀構想研究会	学校給食の役割や地場産物、食文化を柱とした地域づくりの必要性を広く啓発するため、全国の学校給食で提供されている地場産物を活かした自慢料理と調理技術を競う大会を開催。	B	800	参加した学校給食スタッフにとって献立や日々の仕事を見直す機会となると共に、資質の向上に大きく貢献している。また、大会が多くのマスメディアに取り上げられた結果、学校給食を広く紹介することができ、学校給食スタッフのモチベーションの向上に繋がった。
	全国学校給食甲子園の開催		都道府県別の応募状況にバラつきがあるため、応募件数の少ない都道府県に対しては理解を求めていくことが望まれる。		
12	(任意)震災がつなぐ全国ネットワーク	東日本大震災の被災者に寄り添った支援活動を行うため、「足湯ボランティア」を各被災地域に派遣すると共に、災害支援活動に尽力できる環境を整備するため、ボランティア受入施設を整備。 1.被災地の現状把握と活動拠点等の決定 2.足湯ボランティアの募集・派遣とコーディネート 3.被災者が発した「つぶやき」の記録・分析	—	—	全国から募った多くの足湯ボランティアを迅速に被災地に派遣できた。また、足湯を通して被災者一人ひとりの声を受け止め、被災者とのコミュニケーションを図ることで、被災者の心身両面のケアに貢献できた。
	被災者に対する足湯ボランティア支援活動		今後、長期的な視点から被災者のつぶやきを追うことにより、被災地・被災者のニーズに合った支援を行いつつ、復興を目指していく必要がある。		
13	(特非)宮崎ライフセービングクラブ (公社)宮崎市観光協会	宮崎県青島海岸に、地域の防犯・防災・観光振興や地域活性化の拠点として「渚の交番」を設置した。 1.施設の改修、機器の整備 2.施設の運営及びイベント開催 3.プロジェクトの普及・広報	A	880	関係機関等と連携して活動を展開し、地域住民の支持を獲得している。特に、警察・消防・海上保安部の指令系統に入り、明確な位置づけを得ている。また、年間を通じて多様なプログラムを提供し、地域の賑わいの創出に貢献している。
	渚の交番プロジェクトの推進		特に見当たらない。		
14	(任意)八重山漁業協同組合観賞魚部会サンゴ養殖研究班 他3団体	島民のサンゴへの理解を高めるため、4団体が連携を図りながら、次代の担い手となる小学生にサンゴ学習を実施する。 (3ヶ年計画の初年度事業) 1.サンゴ学習プログラムの開発と人材育成 2.出前授業の実施 3.島内外での告知活動	—	—	実施4団体は、明確な役割分担のもと体制を構築し、連携を図りながら推進している。また、各団体の特長を活かした学習プログラムを開発し、出前授業を実施した学校・児童から高く評価されている。
	地域連携による石垣島の活性化		サンゴ学習の実施校を拡大していく為には、先行事例が直面している拡大困難な理由を分析して対策を講じると共に、教育委員会や地方自治体の連携・協力が得られるよう、働きかけが必要である。		
15	日本財団	当財団は、自宅のような雰囲気まで最期まで心身のケアを受けながら過ごせる場を提供するため、2005年度からホームホスピスへの支援を開始した。そのうち、施設の改修・改装は、2012年度まで6団体15事業を整備している。	—	—	調査対象とした3団体では、ホームホスピスに対する高い理念を持ち活動している。また、入居希望者が多く満室状態で、入居者やその家族の満足度も高く、地元自治体からも評価を得ている。
	ホームホスピスの整備(改修・改装)		現在、行政側として、ホームホスピスへの支援がまだ十分とはいえないこの時期だからこそ、日本財団として、他に先駆けて積極的な支援策を講じていく必要がある。		

※レベル … A(850～)=秀逸である B(750～)=優良である C(650～)=標準的である D(550～)=改善すべき問題がある E(～549)=劣っている